

## 米国 7月も雇用の安定的な拡大持続(7月14日までの週の新規失業保険申請件数)

2007年7月19日(木)

～7月の非農業部門雇用者数は前月差+150千人と増加ペース加速が見込まれる～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

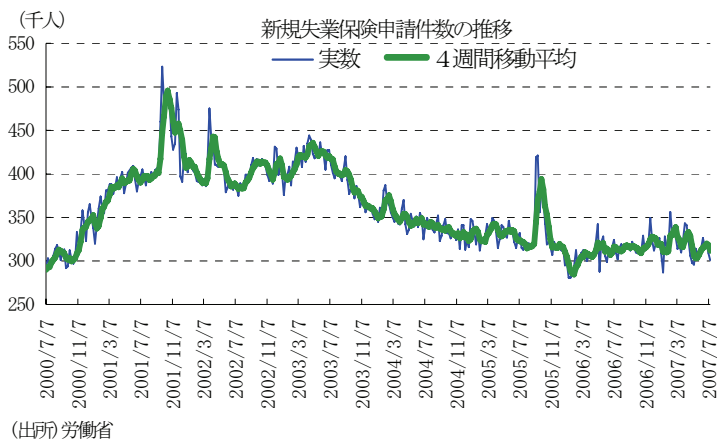
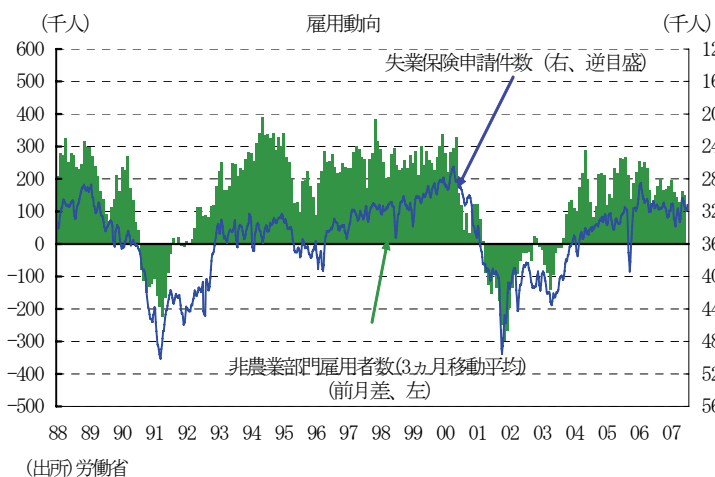
- 7月14日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は30.1万件と前週の30.9万件から0.8万件減少し市場予想の31.1万件を下回った。また、トレンドを示す4週間移動平均も31.2万件と前週の31.8万件から減少した。
- 7月の雇用統計調査週である7月14日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み、4週間移動平均)が6月の雇用統計調査週から小幅減少したことから、7月の非農業部門雇用者数は前月差+150千人(6月同+132千人)と増加ペースの加速が予想される。
- 2007年7～9月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画などでは採用の拡大ペース鈍化が示唆されているが水準は高い。さらに、多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画(「増やす」-「減らす」)も6月に12.7%(3ヵ月移動平均)と昨年11月をピークに小幅水準を切り下げているが、2004年以降のレンジ内にとどまっており依然高い水準を維持している。これらのことから、非農業部門雇用者数は2007年7～9月期に平均で前月差+80千人～+140千人前後の増加ペースを維持すると見込まれる。
- 雇用の拡大が示されたため指標公表直後、債券利回りが上昇、ドル円はもみ合い、株価は上昇した。

### 30.1万件と市場 予想を下回った

2007年7月14日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、30.1万件と前週の30.9万件から0.8万件減少し市場予想の31.1万件を下回った。また、トレンドを示す4週間移動平均も31.2万件と前週の31.8万件から減少した。雇用は2006年3月以降続く安定的な拡大ペースを維持していると判断される。

2007年7月の雇用統計調査週である7月14日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み、4週間移動平均)が、6月の雇用統計調査週から小幅減少したことから、7月の非農業部門雇用者数は前月差+150千人と6月の同+132千人から増加ペースの加速が予想される。

7月7日に終わった週の失業保険受給者数は257.1万人と前週から増加したが、06年3月以降続いている低い水準を維持した。また、7月7日に終わった週の失業保険受給者比率が1.9%と6月と同水準で推移しており、来週も同水準で推移すれば7月の失業率は4.5%前後にとどまる可能性が高い。

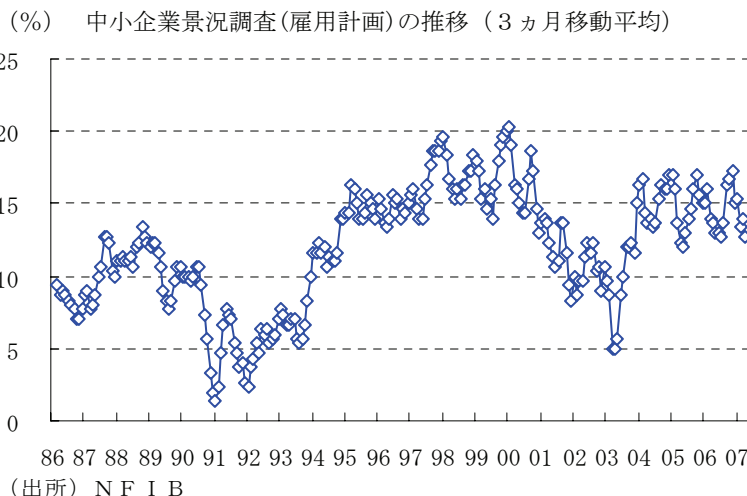
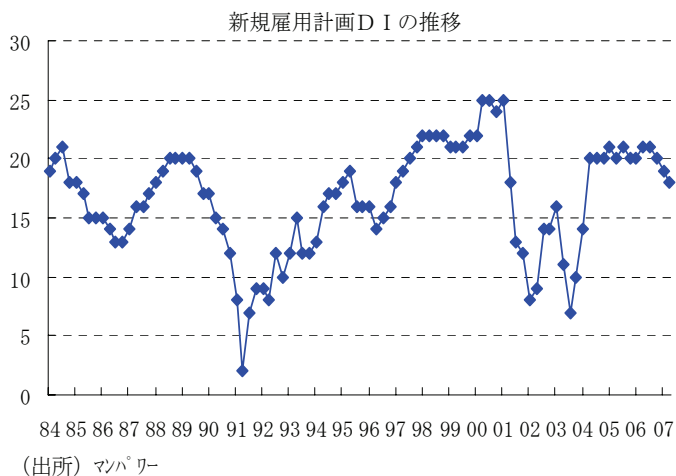


**雇用は7～9月期も  
安定的な拡大トレンドを維持**

今後の雇用動向に関しては、世界的な価格競争の激化が続く中、コスト削減のために一部の企業での雇用削減によって今後もリストラ件数は高い水準を維持すると予想される。一方で、雇用に影響する景気は足元で底堅く、今後拡大ペース加速が見込まれている。このため、経営者の期待成長率が高い水準を保ち企業の採用意欲は比較的強い状態を維持すると考えられる。

実際、2007年7～9月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画などでは採用の拡大ペース鈍化が示唆されているが水準は高い。さらに、多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画（「増やす」－「減らす」）も6月に12.7%（3ヵ月移動平均）と昨年11月をピークに小幅水準を切り下げているが、2004年以降のレンジ内にとどまり依然高い水準を維持している。これらのことから、非農業部門雇用者数は2007年7～9月期に平均で前月差+80千人～+140千人前後の増加ペースを維持すると見込まれる。

一方、失業率は求人・賃金の増加を受け、求職者の労働市場への再参入によって小幅上昇するものの5%を下回る低い水準が維持される公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。